

山本 たかお (やまもと・たかお) 先生

株式会社テレビ朝日 編成制作局
エグゼクティブプロデューサー

1959年京都府生まれ、1977年六甲高等学校卒

1982年一橋大学法学部卒 株式会社テレビ朝日入社 制作局配属

数々の音楽番組のアシスタントディレクター、

「グラミー賞 SP」のディレクターの後、

1986年「ミュージックステーション」を立ち上げ、

以来25年余担当。ディレクター、チーフディレクター、

プロデューサー兼演出を経て現在チーフプロデューサーに。

その他にも「パパパパ PUFFY」(1997年)「8時だ J」(1998年)

「裸の少年」「マシュー S BEST HIT TV」(2001年)の

プロデューサーを担当、「堂本剛の正直しんどい」(2002年)、

「いいはなシーサー」(2007年)なども企画する。

2010年より「タモリ倶楽部」も担当する。2011年9月「テレビ朝日

ドリームフェスティバル」を企画、B z、ラルク・アン・シエル、グレイ、

東京事変、いきものがかりなどを集めたライブイベントを日本武道館で3日間

開催、大成功させ、今年はドリカム、aiko、ケツメイシなどを集め10月6～8日に開催された。



〈講義概要〉

株式会社テレビ朝日編成制作局エグゼクティブプロデューサー兼事業局イベント事業部、「ミュージックステーション」チーフプロデューサー、「タモリ倶楽部」プロデューサーとして、数々のテレビ番組の企画・運営に携わる山本たかお氏が、「ミュージックステーションの変遷と展望」をテーマに講義を行った。

講義ではまず、ミュージックステーションの裏側に密着した貴重な映像を上映し、大勢のスタッフの入念な準備によって出来上がる生放送番組制作の実態や戦略について、番組へのこだわりや制作工程、カット割り、スケジュール、ブッキングのシステム等様々な面から具体的に説明。番組制作の奥の深さやその魅力、そしてスタッフの熱意を学生は実感した。

続いて、テレビや音楽業界の今後の展望について説明し、ネットの台頭によりテレビ離れやCD売上の不振などが危惧される中、優れたコンテンツ(ソフト)を作る能力を高めることや、アーティストの育成が最重要であることを訴えた。また、ネットの活用やライブイベントの開催、ライブハウスの設立など、テレビ以外の分野への新たなビジネス展開についても解説し、音楽産業の課題や可能性を示した。デジタル時代における今後のエンタテインメント産業のあり方について、学生に新たな視点で考えるきっかけを与えた。

〈受講生の感想〉

テレビの存在はやはり大事で、今後も音楽と共にあり続けなくてはならないと感じた。また、今はインターネットも普及しているので、その力も借りてやるということも大事なのだと理解できた。音楽+他メディア媒体の繋がりが重要だと感じた。

立命館大学・産業社会学部・2回生

ミュージックステーションは視聴率だけでなく、新人発掘にとっても積極的で、音楽番組が少なくなってしまっている現在のテレビ業界において、ネット配信やイベント等、さらに音楽業界全体を盛り上げていこうと力を注いでいるところがとても魅力的であり重要な番組だと思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

インターネットの急速な発達によってテレビの存在が危ぶまれる今、番組としてどんな特色を残せるかはテレビ業界全体の課題だと思います。ミュージックステーションはインターネットと争うのではなく、「MUSIC STATION ON THE WEB」を開設し、インターネットと共存する形で新たな試みをしているのが面白いと思いました。また音楽フェス、ライブハウスなど番組とどうリンクさせていくのか、これからもミュージックステーションのアイデアから目を離せないと思いました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

超人気番組の制作の裏側について学ぶことができ非常に勉強になりました。本当に大変な仕事内容だとは思いますが、私も将来、プロデューサーかディレクターとしてテレビ番組に携わりたいと改めて感じました。音楽界はこれからも目まぐるしく動いていくだろうし、テレビ業界もどんどん変化していくと思うので、そのあたりもきちんと意識しておきたいです。

立命館大学・映像学部・2回生

毎週放送される番組が毎回とてつもない時間をかけて制作されていることを知り、生放送へのこだわりを感じました。また、第一線で活躍されているディレクターの方が女性であり、女性スタッフも多くいらっしゃることを知りました。特に女性に求めるのは男性に負けないと自負する体力等ではなく、「女性なりの感性や意見」であるという山本先生の言葉がとても印象に残りました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

私が特に興味深かったのはブッキングのシステムやアーティストの育成についてでした。どのような基準でゲストを決定しているのが気になっていたし、また、アーティストの育成が音楽界を支えるキーであるということが分かりました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

